



鮮やかな指さばきと  
巧みなフレージングで弾き進める中に  
繊細な感性を発揮し  
多彩なニュアンスを表出した。  
《月光》に漂う神秘的な幻想性・・・  
(音楽の友誌)

実にパッションに溢れ、曲の持つ起伏の  
感情をストレートに表現する。  
(レコード芸術誌)

# 高田 泰治 Taiji Takata Fortepiano Recital

## フォルテピアノリサイタル

使用楽器: J.G.グレーバー1810年製(奥・インスブルック) オリジナルのフォルテピアノ

作曲者が活躍していた時代の楽器で聴くオール・ベートーヴェン・プログラム!

ピアノソナタ 第8番 ハ短調 Op.13「悲愴」  
ピアノソナタ 第14番 嬰ハ短調 Op.27-2「月光」 他

2020年7月25日(土) 18:00開演 17:30開場 [指定席]  
一般3,500円 学生2,100円 チャリティシート 3,850円 ハーフ60 2,100円



チケットのお求めは  
**4月12日(日)**  
10時より販売開始  
発売初日はお電話受付のみ

宗次ホールチケットセンター TEL:052 (265) 1718

「学生」「ハーフ60」「チャリティシート」のチケットは、宗次ホールチケットセンターのみで取扱いとなります。  
「学生券」=小学生以上25才以下の学生が対象。「ハーフ60」=後半のみの当日券。事前予約受付不可。

●チケットぴあ TEL:0570 (02) 9999 [Pコード:183-769]  
●名鉄ホールチケットセンター TEL:052 (561) 7755

くらしの中にクラシック  
宗次ホール  
Munetsugu Hall

営業時間:10:00~16:00

※13:45以降に開演の公演がある場合は18:00まで営業

※やむをえず、曲目などに変更がある場合がございます。あらかじめご了承ください。 ※未就学児のご入場は、ご遠慮ください。

## 楽聖の傑作と銘器で、また”進化”を果たした名手

「ベートーヴェンと言えば、普通、演奏家にとって、どーんと大きな建造物のように立ちはだかる存在。確かに、作曲家自身がそんなイメージを求めた部分もあったと思うんですけど…。僕はそれより、実際に弾いていて、曲に秘められたユーモアとか、リズムで遊んでみるとか、とにかく、すごく優しく面白いなんだな、と実感したんです。そして、こんな面にこそ、大きな魅力を感じました」

関西とドイツ・レマゲンを拠点として、様々な時代の歴史的鍵盤楽器を弾きこなし、精力的な演奏活動を展開する気鋭の名手・高田泰治。デビューの頃から彼を知っているが、自身の録音に関して、こんなに楽し気に語る姿を初めて見た。

今回は、楽聖ベートーヴェンが”アラサー”を迎えた1800年前後に書いた、3つの佳品を収録。スイス・インスブルックの名工ヨハン・ゲオルク・グレーバーによる、オリジナルのフォルテピアノ(1807年)を駆っての取り組みだ。

「膝で操作するペダルを持つ最後期のモデルで、この時代の楽器は余り残されていないようです。鍵盤の沈みが浅い上に、ハンマーも小さく軽い。

他のオリジナルのフォルテピアノと同様、全ての音域を、均一の音色で弾くのは不可能。そんな弱点があっても、ベートーヴェン特有のリズムや音型が、モダン楽器よりも表現しやすい。

楽譜の指示が、凄く自然に表現できるんです。モダン楽器だと出てくる、(表現を控えめにするなどの)別の意味での苦勞が無くなりました」

その結果、創り出されたのは、滋味あふれる響きの世界。高田は「僕が弾く時間よりも調律の時間が遙かに長かったほど、楽器のメンテナンスは大変だったようですが…」と苦笑し、この楽器でベートーヴェンのピアノ協奏曲とソナタのそれぞれ全曲に対峙したことが、「大きな糧になった」とも言う。

今回の録音を含めて、「ベートーヴェンは同じ音型であっても、sfやf、pなどのダイナミクス指示が異なるケースが多い。どういう意味で、異なる書き方をしたのか。そんな理由をひとつひとつ探すのも、すごく楽しかった。とてもいい経験になりました」。

楽聖による傑作と歴史的銘器の響きが、名手の一層の”進化”を後押ししたようだ。音楽ジャーナリスト 寺西 肇



## 日独を行き来し活躍中、気鋭のフォルテピアノ奏者 C. ショルンスハイムやA. シュタイアーら名手たちの薫陶を受ける

### 高田 泰治 Taiji Takata



ドイツ在住。2003年神戸新聞松方ホールにてテレマン室内オーケストラとともにピアノ、フォルテピアノ、チェンバロのそれぞれの協奏曲を一夜で演奏するという公演にてデビュー。

フォルテピアノ奏者としては、2010年NHK「クラシック倶楽部」にてモーツァルト作曲ピアノ協奏曲 第12番を好演し話題となる。また同年4月よりモーツァルト作曲の1台のためのピアノ協奏曲全曲を3年のスパンで演奏するシリーズを開始し注目を集める。2012年6月24日NHKFM「リサイタル・ノヴァ」で、モーツァルトほかC.P.E. バッハの作品を好演。

チェンバロ奏者としても2011年5月に「バッハ・アルヒーフ」(ライブツィヒ)の主催する定期演奏会に出演(日本人鍵盤奏者としては初めての招聘)し好演。10月には同公演と同じ曲目を収録したCDをライブノーツよりリリース。

現在はバロック・ヴァイオリンのU. ブンディースとデュオを結成しドイツでも演奏活動を展開中。2014年ポツダムでの公演は「軽やかな手首の動きで流れ落ちる滝のごとく、はじけ滴る雫のごとくまた時には滔々と流れる大河のごとく銀色に煌めく音を生み出してゆく」(Potsdamer Neueste Nachrichten誌)と評された。

フォルテピアノとチェンバロをC. ショルンスハイムに師事。また2012年よりA. シュタイアーに、2013年よりO. ボーモンに師事。2013年4月にはU. ブンディースとのデュオのCDをリリース。平成23年度坂井時忠音楽賞受賞。2014年には中之島中央公会堂(大阪市)にて、ベートーヴェンのピアノ協奏曲全曲公演(全3夜)を好演。2015年、U. ブンディースとの2枚目のデュオと、フォルテピアノ・アルバムを、2016年には「うつろい」(4つの古典鍵盤楽器を使用)とJ.S. バッハ「ゴルトベルク変奏曲」をリリース。

平成28年度咲くやこの花賞音楽部門受賞。2018年、J.G. グレーバー製作オリジナルフォルテピアノによる「ベートーヴェン・アルバム」CDが雑誌「レコード芸術」(2018年8月号)にて特薦盤となる。2018年度音楽クリティッククラブ賞奨励賞受賞

宗次ホールのご情報はこちら！

【当日券情報】などつぶやいています！

twitter

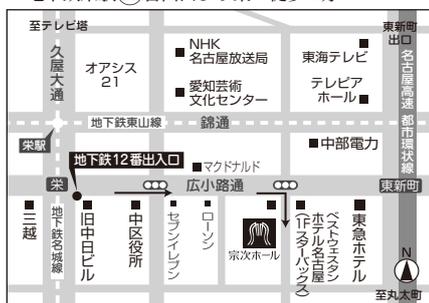


<https://twitter.com/munetsuguhall>



他にも各SNSにて情報発信中！

交通アクセス  
地下鉄栄駅⑫番出口より東へ徒歩4分



くらしの中にクラシック

宗次ホール  
Munetsugu Hall

名古屋市中区栄4-5-14 〒460-0008  
TEL:052(265)1715 FAX:052(265)1716  
E-mail info@munetsuguhall.com  
URL www.munetsuguhall.com

宗次ホールチケットセンター  
営業時間:10:00~16:00  
※13:45以降に開演の公演がある場合は18:00まで営業